

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	環境意識啓発事業(生活と環境まつり開催事業)	会計	一般会計	事業No.	334	施策順No.	54-002
		事業種別	政策・その他	予算科目	4-1-5-15-2		
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			課等名	環境課		
施策	54 自然とのふれあいと環境学習の推進			事業期間	開始	9	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	飯田市を中心とする地域の住民、市民団体、事業所						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)						
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	飯田市を中心とする周辺地域の住民(人)(H21.10.1推計人口)	107259	106630	105691	105036	107000		
	市内の市民団体、事業所数	7000	7000	7000	7000	7000		
意図	環境と健康、日常生活に関する意識の高揚が図られる							
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)						目標達成度	
	参加者数(H22年度から会場変更)	5500	5300	3500	3500	3200	3500	B
	参加団体数					68		
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		参加者数が21年度に減っているのは新型インフルエンザの影響があったと思われる。22年度に増えていないのは会場が県文化センター(及び県体育館)から飯田文化会館へ変更となったため。						

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	環境意識啓発事業 健康と生活と環境をテーマとした総合イベント(生活と環境まつり)を開催する 行政、市民団体、事業所等による実行委員会方式で実施する 具体的な実施方法や内容については、実行委員会で検討し、企画運営を行う 市民団体主導のイベントになるよう、各団体間の調整を行う等、実行委員会活動を支援する		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	生活と環境まつりの開催 1 市民(市民団体)、事業者、行政による環境保全活動等の展示と紹介、シンポジウム、体験型展示を実施 2 市民団体主導の実行委員会を組織し参加出展団体募集	1 来場者数 2 出展団体数	1 3200人 2 68団体
23年度実施計画	市民(市民団体)、事業者、行政の環境保全活動等の展示、紹介を行うと共に、シンポジウム、体験型の展示を行い、より効果的な内容で、市民の意識高揚が図れるよう企画、運営を検討し、多彩な内容としていく 市民団体主導のイベントになるよう、各団体間の調整を行う等、実行委員会活動を支援する	1 来場者数 2 出展団体数	

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
	一般財源		802	802	762	
計(A)		802	802	762		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			802			

4 事業に対する市民や議会の意見

イベントに参加した市民からは、開催の主旨と環境保全の大切さを理解できたとの評価がある。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	環境改善活動を継続的に展開する	施策の成果指標又はムトス指標	環境改善活動を継続的に実施している市民の割合(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	個人の環境に対する意識の向上に役立った。		
	後期に向けた課題	より多くの市民が環境に対する意識の向上を図ることができること。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	FMや広報、web、地元情報誌などを通じてさまざまな手段により、まつりの広報を行った。		
	後期に向けた課題	レンタル品が少なく済む会場の選択。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	まつりの景品を企業から無償提供を受けたり、看板作成費を抑えたりした。		
	後期に向けた課題	まつりの際に必要な道具のレンタル代などの経費の削減。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	準備段階から市が関わることで、祭りの運営が円滑に行われてきたが、市の負担がかなり大きいと感じた。準備段階から市民などに関わってもらいたいが、実行委員が少なく、毎年決まりきったメンバーしかいないため、関わっていただくにも限度があった。市の関与するウエートは小さくないが、その関与の度合いは、祭りの運営上は適切な範囲内であった。		
	後期に向けた課題	実行委員会組織を充実させ、市民の皆さんがもっと関わられるような祭りにすることができるとよい。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	主体は実行委員で、様々な団体が関わっている。		
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	生活展と健康フェスティバルと環境展が合同で開催するようになって、7年たったが年々マンネリ化している。3つの祭りが合同になったことで環境展のテーマがぼやけてきた。環境展に関しては、開催する目的を失ってきつつある。		
	後期に向けた課題	このような形で開催することは、行政側が多くの労力を使うわりには、大きな成果が出ているとはいえない。環境展については、1から見直し、テーマを決め、出展などの内容を充実させることが必要であるが、開催そのものの必要性について検討する必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------